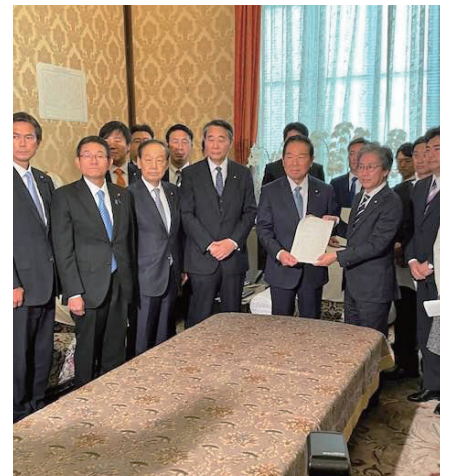




# 岸田総理に退陣迫る。 裏金問題は疑獄事件に なる様相!

臨時国会閉幕

臨時国会が閉会しました。自民党における派閥の政治資金パーティーでの裏金づくりは、今後、東京地検特捜部の捜査が本格化し、一大疑獄事件になる様相です。特に最大派閥である安倍派では、重要閣僚や党要職を担う派閥幹部が揃って多額のキックバックを政治資金収支報告書に記載せず、長年にわたって組織的に裏金づくりが行われていたのではないかと指摘されています。しかしながら、疑惑をもたれた議員は「精査して適切に対応する」と繰り返すだけで、全く説明責任を果たしていません。



12月13日  
岸田総理に対する内閣不信任決議案を提出

岸田総理は、物価高対策、経済対策、少子化対策など山積する課題について、決断が遅く、唐突に減税を打ち出すなど場当たりの対応も目立ち、国民の不信を招いています。今回の疑惑についても、岸田総理自身が党総裁として、真相解明に向けたリーダーシップを発揮する姿勢は全く感じられません。安倍派の閣僚や党幹部を更迭して、幕引きを図りたいようですが、これで済まされる問題ではありません。もはや岸田総理に対する国民の信頼は失墜しており、国政の停滞を招くことがないように岸田内閣は総辞職すべきです。

権力は長く続けば必ず腐敗します。派閥による裏金づくりが常態化していた背景には、安倍長期政権も含めて、自民党の一強政治が続く中での驕りや緩み、政官業の癒着の構造があると思います。自民党の自浄作用に期待できない中、国会の役割が重要です。政治資金規正法の厳格化などにより制度の抜け道を防ぐことが必要です。私どもは、「政治とカネ」の透明性を確保するために全力をあげてまいります。



**笠ひろふみ**

りゅう 衆議院議員 元文部科学副大臣





### シンポジウム「読書バリアフリーと学校司書の役割」 11.7

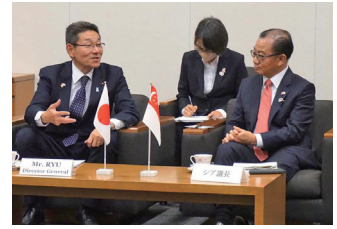
#### 学校図書館議員連盟の事務局長として挨拶

学校図書館法70周年の2023年を学校図書館改革の新たな出発点と位置づけています。読書バリアフリーと学校司書の処遇改善を目指す施策について報告しました。特別支援学校の小学部、中学部ともに読書環境が劣化した現状が明らかになっています。学校司書が配置されていない事例も多くなっています。2019年に施行された読書バリアフリー法(視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律)の具現化に向けて、特別支援学校など障害児の在籍する学校の図書館の環境充実に全力で取り組みます。



### 議員外交

日本・シンガポール友好促進議員連盟の幹事長としてシア・シンガポール国会議長と会談しました。 11.20



日本・マルタ共和国友好議員連盟副会長としてスピテリ大使と意見交換しました。 12.12



### 夜間中学等義務教育拡充議員連盟の事務局長として、盛山文部科学大臣に対し、夜間中学の更なる設置・充実に向けた提言 11.6

#### 「誰にでも学ぶ機会を！」

義務教育を終えていない人の最後の学びの砦である夜間中学は、不登校の子どもの学びの場としても期待されています。47都道府県20政令市に最低でも1校設置の実現を目指します。



### 「世界人事会議」で講演 11.8

国内外からのゲストを招いて人的資本経営や多様性、情報開示など人事戦略についてのシンポジウムには、米国からはSHRMのトップであるジョニー・テイラー氏も駆けつけました。変革の時だからこそ、新たな人事戦略が求められ、DXとGXの世界的潮流を取り込みながら、経営戦略と人材戦略の連動を考えていく必要があります。多様な人材が生き生きと活躍できる組織や社会づくりを進めていくことは、一人一人の生産性を上げていくことにもつながるはずです。



## 拉致問題を絶対に風化させない！！

笠は国会議員として20年、超党派の拉致議連で活動し、現在は事務局長代理を務めています。また、立憲民主党拉致問題対策本部の幹事長を務めています。

### 「全拉致被害者の即時一括帰国を求める国民大集会」 11.26



党を代表して挨拶しました。冒頭に、国会議員の一人として今年も5月に続いて国民集会を開催しなければならないことをお詫びしました。拉致被害者ご本人やご家族が高齢となる中で、拉致問題は時間的制約のある人権問題であり、解決に一刻の猶予もなく、岸田総理と金正恩委員長の首脳会談実現に向けて全面的に協力することを約束しました。その上で、拉致問題を絶対に風化させないように、私たち一人一人が拉致問題をわが事として考え、被害者全員を取り戻すために結束して臨んでいくことの必要性を強調しました。



立憲民主党拉致問題対策本部 12.7  
家族会、救う会、特定失踪者家族会の皆さんと意見交換



ハマスに拉致された被害者家族の皆さん、  
コーヘン イスラエル大使と会談  
12.12